

報道関係者各位

乾燥シーズン到来！長引く咳の実態調査を解説 秋冬の三大注意ポイントは「乾燥・煙・冷氣」 意外な盲点は“香水”、女性に多い傾向

杏林製薬株式会社は、空気が乾燥し始める季節に合わせ、慢性咳嗽（長引く咳）の啓発を目的として長引く咳の実態調査を実施しました。主な結果を以下にお知らせいたします。

■ 長引く咳の原因は「咳過敏症」かも？

朝晩の寒暖差が大きくなり、空気が乾燥し始めるこの季節。「風邪が治ったはずなのに咳だけが止まらない」「話すたびに咳き込む」「寝る前になると咳が出る」といった“長引く咳”に悩む人が増えています。今回、直近1年以内に咳が長引いた（3週間以上）ことがある10,298人を対象とした調査を行いました。そのうち半数近くが医療機関を受診していないことや、慢性的な咳の背景にある『咳過敏症』の存在が十分に知られていないことが浮き彫りになりました。

咳過敏症は、通常では反応しない“わずかな刺激”に対しても神経が過敏になって咳が出てしまう状態です。2025年春にアップデートされた咳の診療ガイドラインでは、これまで原因不明の咳とされてきた症状に対し、「咳過敏症」という病態が明確に記載され、メカニズムや治療法についても紹介されました。

本資料では、今注目が集まる「長引く咳」や「咳過敏症」についての実態調査を解説します。

■ サマリー

- ① 咳が続いても医療機関を受診しない人が44%という結果に—
「咳で受診していいのか分からない」「咳は治らない」といった咳への理解不足
- ② 咳は症状の伝達に課題有り？
医師に十分伝えられていると回答した割合は約2割程度にとどまる
- ③ 長引く咳が辛くて受診する人の3人に1人は“非常に辛い状態”
- ④ 咳過敏症の認知率は全体で3割。“医療機関の受診有無”が認知の差に影響。
- ⑤ 咳を誘発する要因は「喉のイガイガ」がトップ。
「冷たい空気」「香水」など意外な要因も。また、いずれも女性に多い傾向。

■ 調査概要

調査対象：「GMOリサーチ & AI株式会社の調査モニター」より、
直近1年以内に咳が長引いた（3週間以上）ことがある10,298人
調査対象数：10,298人（年齢：20歳～69歳 男女比：男性60.8%、女性39.2%）
調査方法：インターネット調査
調査期間：2025年9月11日から2025年9月19日
調査実施機関：GMOリサーチ & AI株式会社

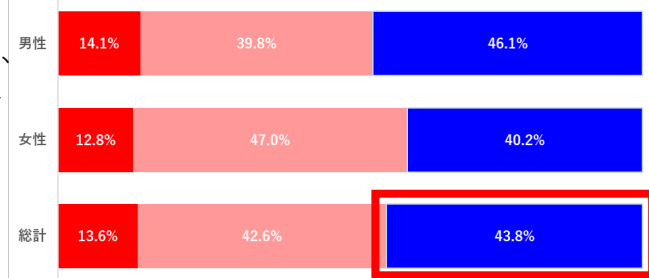
■ ①咳が続いても医療機関を受診しない人が44%という結果に—
「咳で受診していいのか分からない」「咳は治らない」といった咳への理解不足

過去1年以内に「咳が長引いたことがある」と回答した10,298人に対し、その際に医療機関（病院・クリニック）を受診したかを尋ねました。その結果、「いいえ（受診していない）」と答えた人は43.8%となり、**約4割が未受診**であることが分かりました。

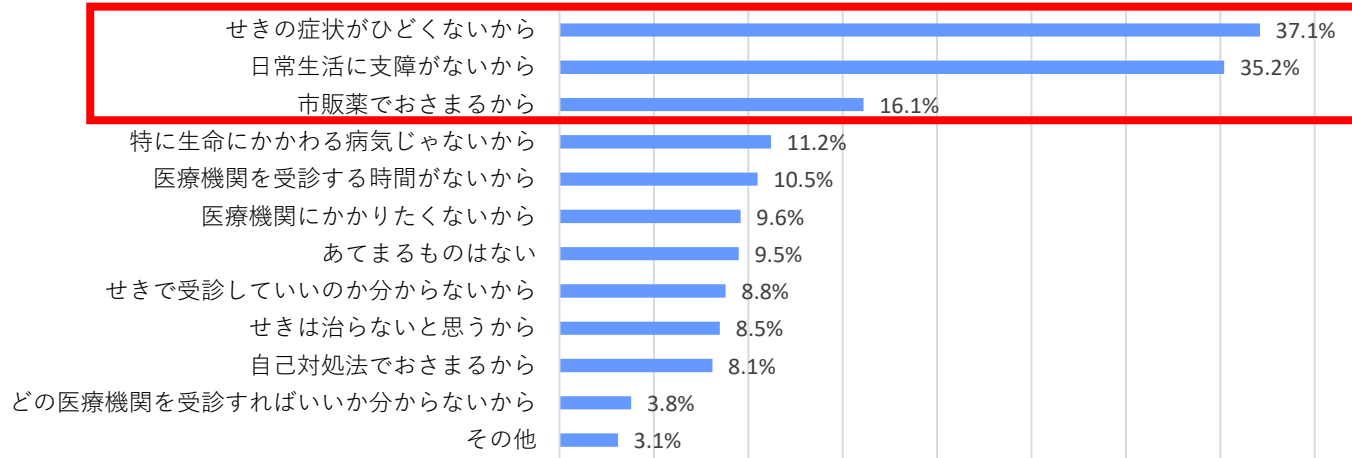
さらに、受診しなかったと回答した4,510人にその理由を聞いたところ、最も多かったのは「咳の症状がひどくないから」（37.1%）、次いで「日常生活に支障がないから」（35.2%）、「市販薬でおさまるから」（16.1%）でした。この結果から非受診者の傾向として、**“軽症だから受診しない” “自己対処で様子を見る”という方が多い**ことが明らかになりました。また、少数の意見として「咳で受診していいのか分からないから」（8.8%）、「咳は治らないと思うから」（8.5%）、「どの医療機関を受診すればいいか分からないから」（3.8%）という方もおり、**咳に対する理解不足**も浮き彫りになりました。

質問：「せき（咳）が長引いた」状態の時に医療機関（病院・クリニック）を受診しましたか。

■ 現在も受診している ■ 受診したことがあるが、今は受診していない ■ 受診していない



質問：「受診していない」とお答えの方にお伺いします。
咳について医療機関（病院・クリニック）を受診していない理由を教えてください。（複数選択）

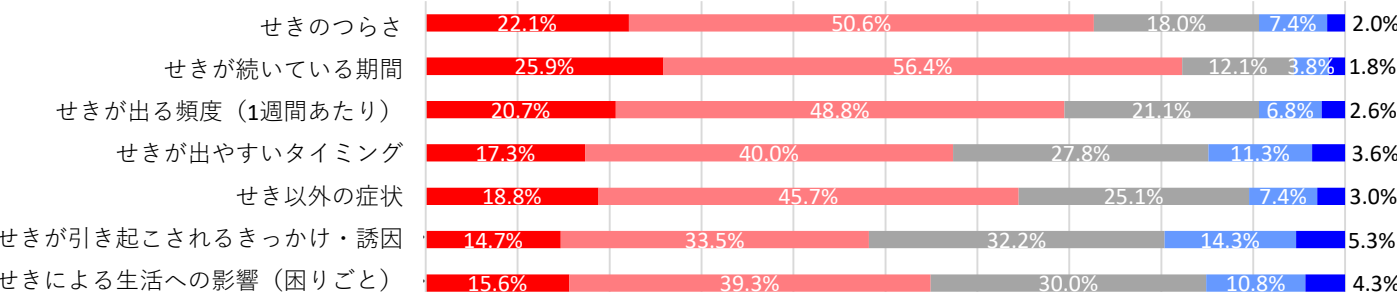


■ ②咳は症状の伝達に課題有り？
医師に十分伝えられていると回答した割合は約2割程度にとどまる

長引く咳で医療機関を受診した5,788名を対象に、医師にどの程度症状を伝えられているかを質問したところ、「咳が出やすいタイミング」「きっかけ・誘因」「生活への影響（困りごと）」について、「**伝えられていない**」と回答した人がそれぞれ**40%以上**にのぼりました。一方で、「**十分伝えられている**」と回答した人は各項目で**2～3割程度**にとどまり、**受診時に咳の具体的な状況が医師に伝わりきっていない可能性**が示されました。

質問：「受診している」とお答えの方にお伺いします。
自分の咳の症状を医師にどの程度伝えられていると思いますか。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 十分伝えられている ■ 伝えられている ■ どちらともいえない ■ あまり伝えられていない ■ 伝えられていない

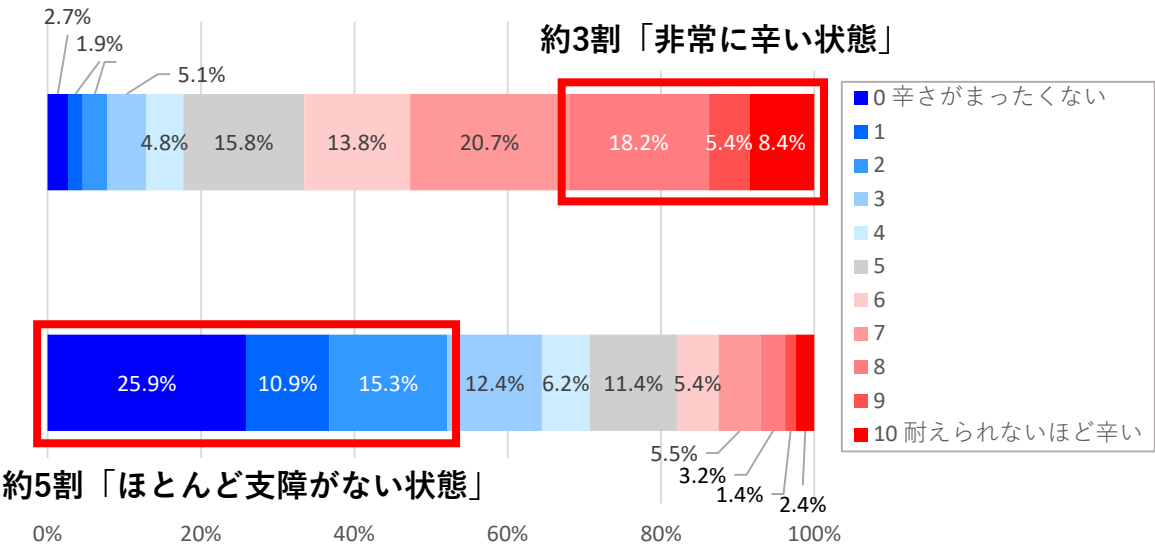
■ ③長引く咳が辛くて受診する人の3人に1人は“非常に辛い状態”

長引く咳で医師に相談しようとする時、どの程度辛いと感じているかを、0（辛さがまったくない）～10（耐えられないほど辛い）で尋ねたところ、「7点」と答えた人が最多で20.7%となりました。また、「8点」18.2%、「9点」5.4%、「10点（耐えられないほど辛い）」8.4%となり、**約3割（31.9%）が医療機関を受診するタイミングでは“非常に辛い状態”**であることがわかります。

また、「受診してどの程度まで症状が下がったら良いと思うか」を尋ねたところ、「0（辛さがまったくない）～2点」と答えた人が52%を占め、**多くの人が“ほとんど支障がない状態”までの改善を望んでいる**ことが分かります。

質問：医師に受診して相談しようとする時、長引く咳の辛さの程度はどの程度だと思いますか。（上図）

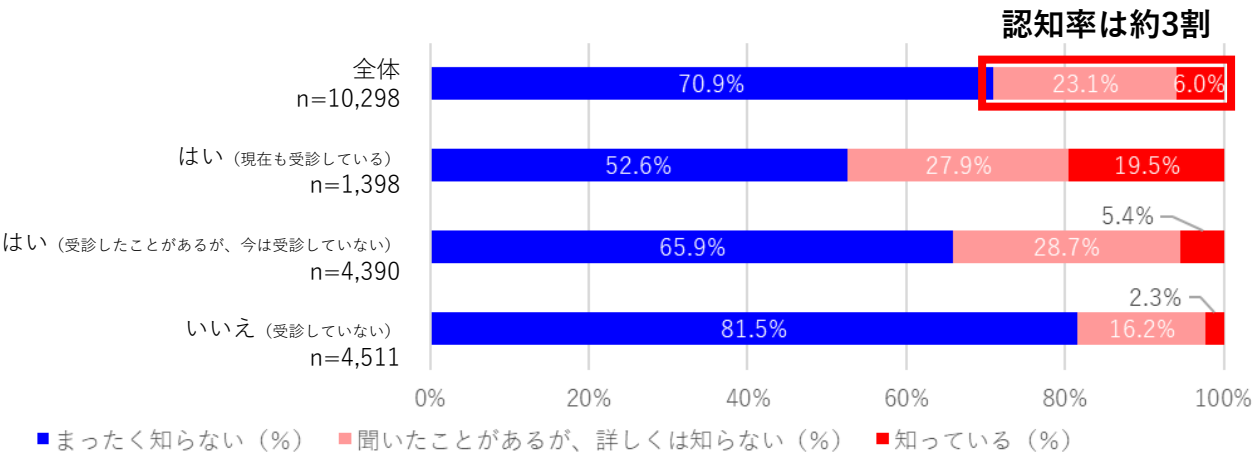
質問：医師に受診して相談した際に、長引く咳の辛さがどの程度まで下がったら良いと思いますか。（下図）



■ ④咳過敏症の認知率は全体で3割。“医療機関の受診有無”が認知の差に影響。

「咳過敏症」という疾患名の認知状況を尋ねたところ、知っている・聞いたことがあると回答した人は約3割の結果になりました。受診の有無別でみると、現在も医療機関を受診している人では19.5%が「知っている」と回答しました。一方で、「受診したことはあるが、今は受診していない」層では5.4%、そして「受診していない」層ではわずか2.3%にとどまりました。また、受診していない層の81.5%が「まったく知らない」と回答し、**受診経験の有無によって「咳過敏症」の認知度に明確な差**が見られました。

質問：「咳過敏症」とは「十分な治療を行ってもわずかな刺激などで咳が出てしまう状態」を言います。あなたは咳過敏症についてご存じですか？



■ ⑤咳を誘発する要因は「喉のイガイガ」がトップ。「冷たい空気」「香水」など意外な要因も。
また、いずれも女性に多い傾向。

咳を引き起こす誘因について尋ねたところ、男女ともに「喉のイガイガ」や「乾いた空気」「煙」「冷たい空気」などが上位に挙げられました。「乾いた空気」「冷たい空気」など、秋冬の季節に関連する項目も上位に上がり、特に秋冬の乾燥期には症状が悪化しやすい可能性が示されました。

また、男女で比較してみると、女性ではこれらの要因に対して反応しやすい傾向がわかりました。特に男女で差が見られたものとしては、「乾いた空気」女性45.1%（男性29.3%）、「煙」女性34.8%（男性24.5%）、「冷たい空気」女性28.7%（男性18.2%）で、その他もほぼすべての項目で女性の割合が高くなっています。

質問：次のうち、咳を引き起こしやすい状況や要因になるものはありますか。
当てはまるものをいくつでもお答えください。

	回答者数	喉の イガイガ	乾いた 空気	煙、または 煙っぽい 環境	冷たい 空気	喉の かゆみ	喉がくす ぐったい	鼻水がのど に落ちる感 覚(後鼻漏)	飲食(食べる ／飲む)	会話	香水や香り (芳香剤等)	体位の変化 (横になる等)	湿気 (湿った環境)	胸やけ	耳かき	この中には ない
男性	6,261	52.9%	29.3%	24.5%	18.2%	19.4%	18.0%	13.4%	9.8%	8.4%	6.8%	7.0%	6.9%	4.7%	3.6%	14.5%
女性	4,037	59.0%	45.1%	34.8%	28.7%	24.9%	22.1%	21.5%	15.8%	16.1%	13.0%	12.8%	7.7%	4.6%	5.0%	9.2%
男女の差		6.1%	15.8%	10.3%	10.5%	5.5%	4.1%	8.1%	6.0%	7.7%	6.2%	5.8%	0.8%	0.1%	1.4%	5.3%

■ 医師からのコメント

丸毛 聡 先生 公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院 呼吸器内科 主任部長

咳は単なる風邪の後遺症や一時的な症状と捉えられがちですが、背景には「咳過敏症」のように神経の過敏化に関わる病態が隠れていることがあります。特に秋から冬にかけては、空気の乾燥や寒暖差が刺激となり、症状が悪化しやすい季節です。咳が長引き日常生活に支障があるような場合は、自己判断で市販薬に頼るのではなく、早めに医療機関で相談してください。原因が分かれば適切な治療で改善することも多く、生活の質を大きく改善できる可能性があります。咳は「体の防御反応」ですが、長引くと心身への負担になります。気になる症状は放置せず、医師による診察の上で改善に取り組むことが重要です。

本資料は、疾患に関する一般的な情報提供を目的としており、その記述は、特定の医薬品の宣伝広告、あるいは医学的アドバイスを目的としたものではありません。当社の製品に関する情報は提供されません。

～本件に関するお問い合わせ～
共同 PR 株式会社（杏林製薬広報代行）
TEL：03-6264-2063 Mail：kyorin-pr@kyodo-pr.co.jp